

■学校経営のポイント

登下校中の安全指導と対応

小島 宏

子どもの登下校中の衝撃的な事故・事件が連日報道されている。学校の危機管理の第1は、子どもの生命・身体の安全の確保であると再確認したい。

登下校中の事故・事件の状況

残念ながら小・中学生の登下校中の交通事故、連れ回し、傷害、性被害、誘拐・監禁などの被害が後を絶たない深刻な状況にある。

人間不信に配慮しつつ、誰でも被害者になり得る現実を子どもに知らせ、事例を通して指導しなければならない段階にあるといえよう。

学校の指導・対応

もはや通り一遍の説話で済む段階ではない。登下校中の安全確保に関する「指導・対応計画」を作成し、発達段階に応じて「何が危険なのか」「どういうことに気を付けたらよいか」「回避するにはどうするか」「どう逃げたらよいか」「助けをどう求めたらよいか」などについて、具体的に指導する。その際、チーム学校として、教職員の共通理解の下に、同じ考え方・方法で、一貫的に、継続的に、タイムリーに進めることが求められる。

事件に巻き込まれる可能性は、どの子にもあり得るが、特に、女兒・女生徒に留意する必要がある。

また、最近の傾向としては、下校時の言葉巧みな誘拐、出会い系サイトなどでトラブルに巻き込まれるなどがある。万々に備えて、子どもに位置検索専用機器を所持させている学校もある。学校だけの指導・対応では限界がある。保護者・地域、関係諸機関と協力・連携して進めることが重要である。

通学路の危険マップ

危険情報を見える化したものが危険マップである。

小・中学校にあっては、通学路の危険な箇所、注意を要する状況を具体的に調べ、マッピングして、子ども

と教職員が情報を共有し、活用していくようにする。

なお、定期的な確認・更新、小さな変化にも留意して随時更新し、子どもに注意を喚起する。

保護者との協力・連携

学校の指導・対応の様子や危険マップなどについて、学校便りやホームページなどで、保護者に知らせ、理解と協力が得られるようにする。

不審者情報や緊急対応の要請などをメールで保護者に知らせるなどのシステムを構築し、リアルタイムに対応できるようにしておくことも必要である。

また、家族の話合いやルールづくりなどについても保護者会等で話題にして、登下校だけでなく下校後の安全確保に広げることに配慮したい。

地域における具体策

子どもの生命・身体の安全確保には、地域住民の理解と協力も必要で、かつ効果的である。

地域の自治会やボランティア団体などに積極的に働きかけて、理解と協力が得られるようにする。

子ども見守り隊、子ども110番(緊急避難所)をはじめ、登校時の交差点の見守り、買い物や犬の散歩・ジョギングなどはなるべく子どもの下校時間帯に行うことなど、実際に様々な活動が実施されている。

住民の関心と協力は、不審者に対する監視となり、大きな抑止効果がある。

関係諸機関との協力・連携

行政の啓発や支援、町ぐるみの取り組み、登下校時の警察のパトロール、防犯カメラの設置と牽制なども重要である。

未来に羽ばたき未来を創造する「宝物」である子どもを、学校と保護者、地域住民や関係諸機関が一丸となって守り育てていくことに勝るものはない。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●答申解説から事例紹介まで、管理職が押さえておくべきポイント総整理
「チーム学校」まるわかりガイドブック

【編集】加藤崇英 A5判・136頁／定価(本体1,600円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

